

【環境】3) ダム湛水地の出現によるサクラマス産卵床消失の影響を過小評価している。

サクラマスの産卵床調査に関しては、専門機関が専門家の指導を受けながら実施しています。調査期間は、9月中旬と10月上旬の2回を基本として、平成12年に調査を開始し、平成13年以降サンル川本川の全湛水予定区間で調査を継続しています。調査方法は、河川内を歩いて、目視及び必要に応じて箱メガネを使用して確認しています。確認した場所については次回調査で重複を避けるため、写真撮影するとともに近くの樹木にリボンテープを設置しています。また、産卵床に似ている自然の凹凸や、サクラマスが掘りかけたにもかかわらず産卵していない箇所について、注意深く調査を行っています。

その他のサクラマスに関する調査についても、専門家の指導を受けながら実施しているところであり、今後とも必要な調査を継続してまいります。

サンルダム建設によるサクラマス産卵床への影響については、ダム湛水予定地において産卵床が確認された平成14・15年では、サンル川流域全体の産卵床の数の1～4%であると推定されます。推定方法は、生息密度調査結果からサンル川流域全体のサクラマス当歳魚の尾数、生み付けられた卵数、メスの遡上数を算出し、サンル川流域全体の産卵床推定数と実際にダム湛水予定地内で確認された産卵床数との割合から推定しています。なお、サンル川流域内の主な支川全域において産卵床調査を実施した平成17年においては、総産卵床数（1,316）に対しダム湛水予定地内産卵床数（24）の占める割合は、約2%となっています。



48-6-0.2 治水

サクラマス産卵床調査 ①

48-6-0.2

- 調査は専門機関が専門家の指導を受けながら実施。
- 調査は9月中旬と10月上旬の2回を基本として実施。
- 河川踏査により産卵床を目視(必要に応じて箱メガネを使用)確認し、確認した産卵床については全箇所の位置を記録し写真撮影。

産卵床に気をつけながら河川内を歩いて調査

必要に応じて箱メガネを使用

48-6-0.3 治水

サクラマス産卵床調査 ②

48-6-0.3

- 1回目に確認した産卵床については、2回目に重複しないよう近くの樹木にリボンテープを設置。
- 産卵床に似ている自然の凹凸に注意して調査。
- サクラマスが掘りかけたにもかかわらず産卵していない箇所があるため、注意深く調査。

1回目調査 産卵床を1箇所確認

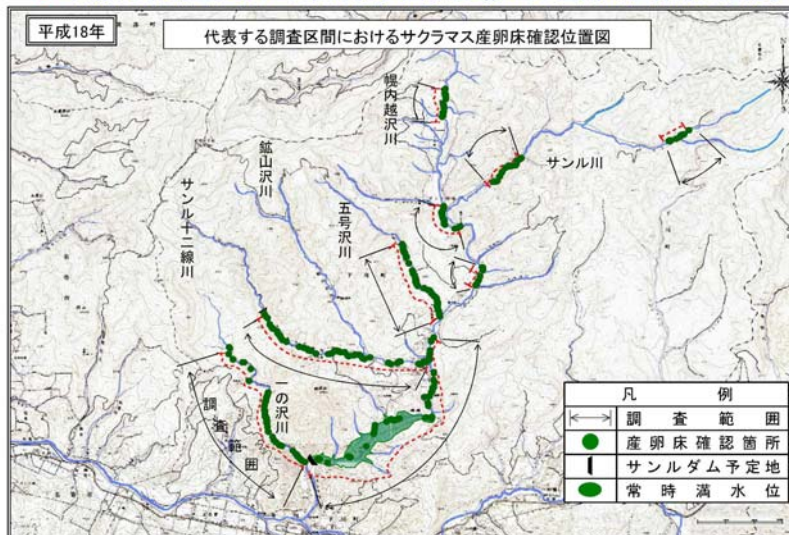
2回目調査 1回目に確認された産卵床箇所の
上流側に新たな産卵床を確認

※ マウンド：産卵あとに埋め戻された部分
ピット：埋め戻しのために掘られた上流側のくぼみ

- サンル川流域では下図の調査範囲においてもサクラマスの産卵床が広い範囲で確認されています。
- 貯水池となる箇所以外にも多くの産卵床が確認されていることから、ダム地点において遡上・降下の機能を確保することによりサクラマスの生息環境への影響を最小限に抑えるよう取り組むこととしています。



- 平成18年調査において常時満水位予定域に45箇所の産卵床を確認。



- 平成19年調査において常時満水位予定域に78箇所の[※]産卵床を確認。
(※平成18年度調査と同じ範囲内では39箇所)

